



活動のまとめと課題

毎年実施される京都大学岩田名誉教授の調査から、令和5年度のアユモドキの推定個体数は当歳魚1,029.2±112.2尾、1歳以上魚668.0±48.6尾と報告されました。アユモドキの現在の生息地は、産卵期である6月に地元土地改良区がラバーダムを立ち上げることで川岸が沈み、産卵のきっかけとなる一時的水域が作り出されています。しかし、個体数は安定的でなく、協議会構成団体の努力により絶滅を免れていますが、人為的な働きかけをしなければ生存ができない状況となっています。生息環境を守るため、保全活動を継続するとともに、亀岡市では都市計画公園に良好な生息、生育環境づくりの取組が進められています。

future

アユモドキとは？

コイ目アユモドキ科の淡水魚で、泳いでいる姿がアユに似ていることからこの名前が付けられました。数が減少した主な原因としては、農業手法の変化や河川整備等による生息環境の変化により産卵場所としていた一時的水域が減ってしまったこと、密漁や外来魚の侵入等が考えられます。

what

アユモドキを守る法律

国内希少野生動植物種（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）と天然記念物（文化財保護法）によって保護されており、違反すると罰則が課せられます。また、オオクチバスやブルーギル等の「特定外来生物」を野外へ放つことは外来生物法により禁止されています。

save

発行：亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会
（事務局 亀岡市環境政策課 0771-25-5023）



亀岡市保津地域 アユモドキ保全協議会 令和5年度 会報誌

アユモドキは国の天然記念物に指定された日本固有の淡水魚です。昔は水田の周りの水路でもよくみられる魚でしたが、現在は亀岡市と岡山県にしか生息していません。貴重な市の魚アユモドキを絶滅の危機から守りましょう。

掲載しているアユモドキのイラストは、京都先端科学大学 バイオ環境学部の講義の中で学生がデザインされたものです。



1

協議会運営事業

令和5年4月21日に総会を開催し、決算・予算等について全会一致で賛成をいただきました。また、令和6年2月26日に開催した報告会では、事業活動や推定個体数の報告を行ったほか、京都先端科学大学バイオ環境学部の学生からアユモドキを軸とした地域活性化の企画案を発表いただきました。



2



普及啓発事業

令和6年2月3日に京都パルスプラザで開催された「京都環境フェスティバル」に出展しました。多数の親子連れでにぎわう中、外来魚釣りやぬり絵、パネル展示などを通じ、市の魚アユモドキをPRしました。また、亀岡市役所や保津川遊船企業組合などでアユモドキの飼育展示を行っています。



3

渇水時の救出活動

アユモドキの産卵・成育環境は、地元農業者の協力により農業用ダムを人為的に操作することで創出されています。それに合わせて毎年、渇水したダムの下流や枯れた水路に残されたアユモドキを上流に移動させる救出活動を実施しています。今年度は大雨警報発令のため、ダム立ち上げに伴う救出活動は中止となりましたが、中干と落水の時期に救出活動を実施しました。



産卵場周辺の環境づくり

アユモドキが産卵しやすいよう、繁殖の妨げとなる植物の伐採や底地の造成、外来魚等の侵入を防ぐ装置の設置などを実施しました。



4

構成団体等の活動

アユモドキ生息状況調査

「NPO 法人 亀岡 人と自然のネットワーク」と「丹波淡水魚 研究会」を中心に、生息状況や推定個体数の調査が実施されました。



体験型イベント

子どもたちにアユモドキをはじめとしたふるさとの生き物や自然に親しんでもらおうと、「NPO法人 亀岡 人と自然のネットワーク」主催によるイベントが開催されました。



ラバーダム起伏に係る調整等

上桂川用水土地改良区連合、川東土地改良区、亀岡土地改良区を中心にラバーダムの立ち上げや中干、落水の日程調整、増水時のダムの調整などを実施されました。



保津町自治会アユモドキ保全監視等業務

アユモドキの生息環境を守るため、保津町自治会によるパトロールが行われたほか、令和6年2月4日にはアユモドキの産卵場所周辺の草刈りと清掃活動が実施されました。



外来魚駆除活動

「NPO 法人 亀岡 人と自然のネットワーク」が南丹高校生などをまじえて、令和5年11月18日、アユモドキの生息する河川上流の安町大池で外来魚の駆除活動を実施されました。

亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会とは？

平成21年3月に亀岡市長へ提出された「亀岡市のアユモドキを保全するための提言書」により同年4月23日に設立されました。アユモドキの保全回復と生息域の拡大に向けた活動を進めています。

